

e) 昆虫類の重要な種

昆虫類の重要な種の確認状況を表 4.1.5-14 に示す。

表 4.1.5-14 昆虫類の重要な種の確認状況

目名	科名	種名	確認方法	確認年度
トンボ	カワトンボ	アオハダトンボ	採集、文献による記録	平成 6 年度、14 年度
	ヤンマ	サラヤンマ	採集	平成 13 年度、14 年度
	サナエトンボ	アオサナエ	採集	平成 14 年度
	トンボ	ハッチョウトンボ	目撃	平成 12 年度
カメムシ	セミ	ハルゼミ	鳴き声、採集	昭和 61 年度、平成 6 年度、9 年度、11 年度、14 年度
	ツチカメムシ	ベニツチカメムシ	採集	平成 6 年度、9 年度
	キンカメムシ	アカスジキンカメムシ	採集	平成 14 年度
チョウ	セセリチョウ	ミヤマセセリ	採集、文献による記録	平成 6 年度
		ホソバセセリ	採集、目撃	平成 6 年度、12 年度、15 年度
		ヒメキマダラセセリ	採集	平成 6 年度、13 年度～15 年度
	シジミチョウ	クロシジミ	採集、目撃	平成 12 年度、(13 年度、14 年度)、15 年度
	タテハチョウ	オオウラギンスジヒョウモン	採集、目撃	平成 6 年度、11 年度、13 年度～15 年度
	アゲハチョウ	オナガアゲハ	採集、目撃	昭和 61 年度、平成 6 年度、12 年度、14 年度、15 年度
	ジャノメチョウ	ウラナミジャノメ	目撃	平成 8 年度
	ヤママユガ	エゾヨツメ	採集	平成 6 年度
	スズメガ	エゾシモフリスズメ	採集	平成 6 年度
	ヤガ	ヒゴキンウワバ	採集、文献による記録	平成 6 年度
		ナカオビキリガ	採集	平成 6 年度
コウチュウ	オサムシ	キアシマルガタゴミムシ	採集	平成 9 年度
		クロヒゲアオゴミムシ	採集	平成 9 年度
		トゲアシゴモクムシ	採集	平成 9 年度、13 年度
	ハンミョウ	アイヌハンミョウ	採集、文献による記録	平成 9 年度、14 年度
	コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ	採集	平成 9 年度
	コガネムシ	シロスジコガネ	採集	平成 9 年度
	ジョウカイボン	カタキンイロジョウカイ	採集	平成 9 年度
	ホタル	ゲンジボタル	目撃	平成 9 年度
	カツオブシムシ	ミヤママルカツオブシムシ	採集	平成 9 年度
	テントウムシ	ウスキホシテントウ	採集	平成 9 年度、14 年度
	ヒラタムシ	キボシチビヒラタムシ	採集	平成 9 年度
		オオキバチビヒラタムシ	採集	平成 9 年度
	ニセクビボソムシ	ホソニセクビボソムシ	採集	平成 9 年度
	ナガクチキムシ	ハガタホソナガクチキ	採集	平成 9 年度
	カミキリムシ	カッコウメダカカミキリ	採集	平成 9 年度
	ハムシ	ヒメキベリトゲハムシ	採集	平成 9 年度、14 年度
	オサゾウムシ	カミヤササコクゾウムシ	採集	平成 9 年度

注) クロシジミの平成 13 年度及び 14 年度の確認は、既に保全措置を実施している生息地での確認である。

e-1) アオハダトンボ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

ii) 生態

本種は、本州、九州に分布し、青森県から鹿児島県まで見られる³¹⁾。佐賀県内では、筑後川水系の田手川、城原川、嘉瀬川水系の嘉瀬川、多布施川、天佑寺川⁶⁾における記録がある。

主に平地や丘陵地の水生植物が繁茂する清流に生息する³¹⁾。生涯羽化水域をほとんど離れず³¹⁾、成熟した雄は水際の植物や流れを分ける石等に静止して縄張りを持つ³¹⁾。トンボ目が幼虫、成虫とも肉食であることはよく知られており、共食いの記録も多く報告されている³²⁾。しかし具体的な摂食行動についてはこれまでほとんど記録がない³²⁾。成虫は5月初旬から現れ7月末まで見られる³¹⁾。交尾を終えた雌は、単独で水中植物の水面付近の生体組織内へ産卵し、時には潜水産卵も観察される³¹⁾。

iii) 調査結果

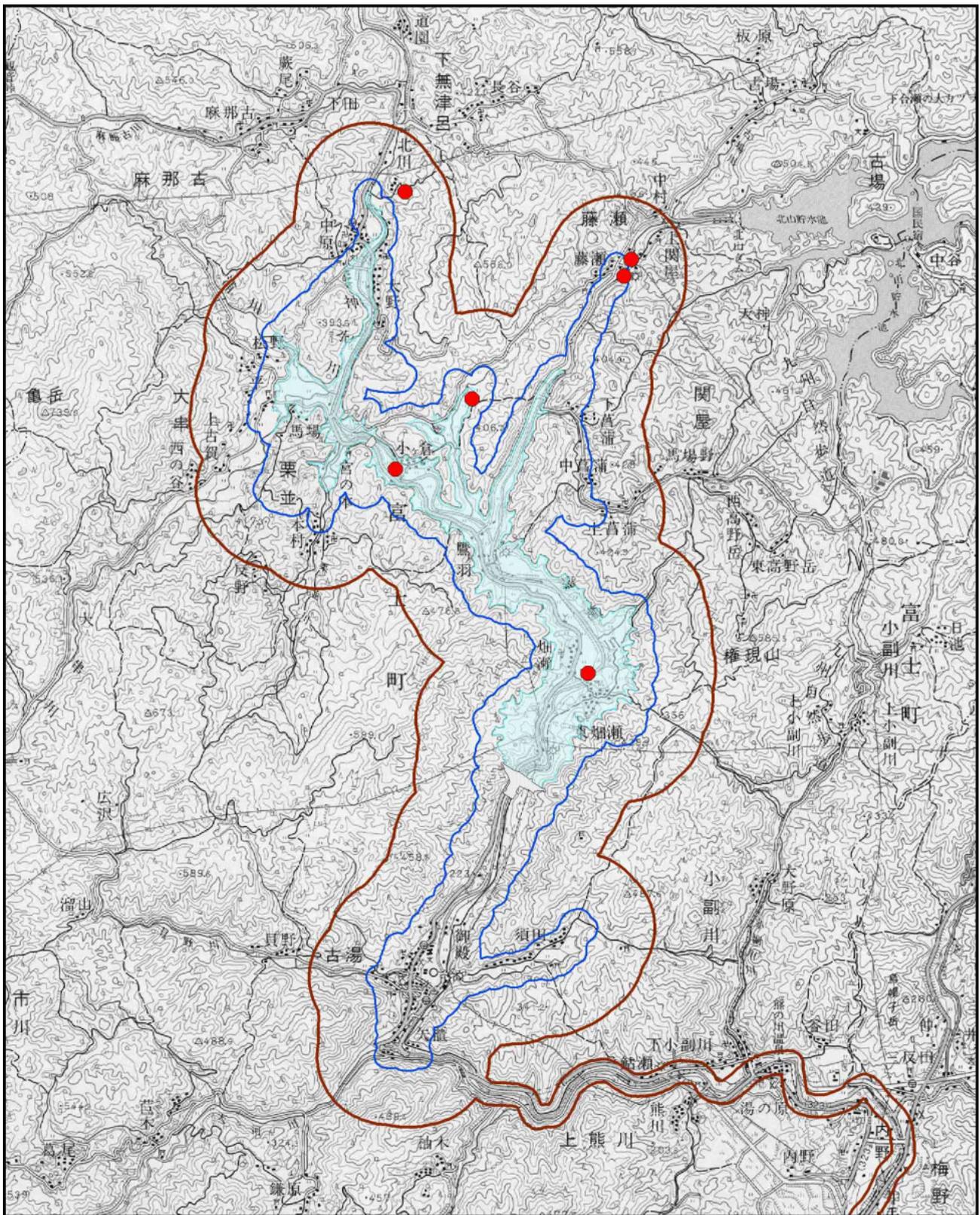
調査による確認地点を図 4.1.5-7(1)に示す。

本種は、平成 14 年度の調査において、下無津呂地区の北川集落南の沢沿い 1 地点、大野地区の音無周辺 1 地点、嘉瀬川の新小関橋上流 1 地点及び下流 1 地点、畑瀬橋付近 1 地点、神水川の小ヶ倉橋付近 1 地点、合計 6 地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に上関屋周辺において確認された記録があり、文献³³⁾においては畑瀬で確認された記録がある。

確認地点の環境は、河川沿いのツルヨシ等が生育する川辺等であり、成虫が

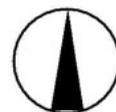
各地点で1個体確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に嘉瀬川の上流部及び周辺支川に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000



図4.1.5-7(1)
アオハダトンボ確認地点

e-2) サラサヤンマ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に準絶滅危惧種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する³¹⁾。佐賀県内では、佐賀市久保泉町ほか県内に局所的に生息⁶⁾するとされる。

主に丘陵地や低山地のハンノキやヤナギ類が生育する湿地林に生息する³¹⁾。幼虫は落葉等に覆われた湿った地面や浅い滞水にすんでいる³¹⁾。トンボ目が幼虫、成虫とも肉食であることはよく知られており、共食いの記録も多く報告されている³²⁾。しかし具体的な摂食行動についてはこれまでほとんど記録がない³²⁾。交尾は雄の縄張り圏で行われるが、通常は雌を捕捉するとすぐに交尾する³¹⁾。産卵は雌が単独で灌木の茂みの下や草叢の中の湿った落ち葉が溜まった柔らかい土やコケ類、朽ち木等に行う³¹⁾。

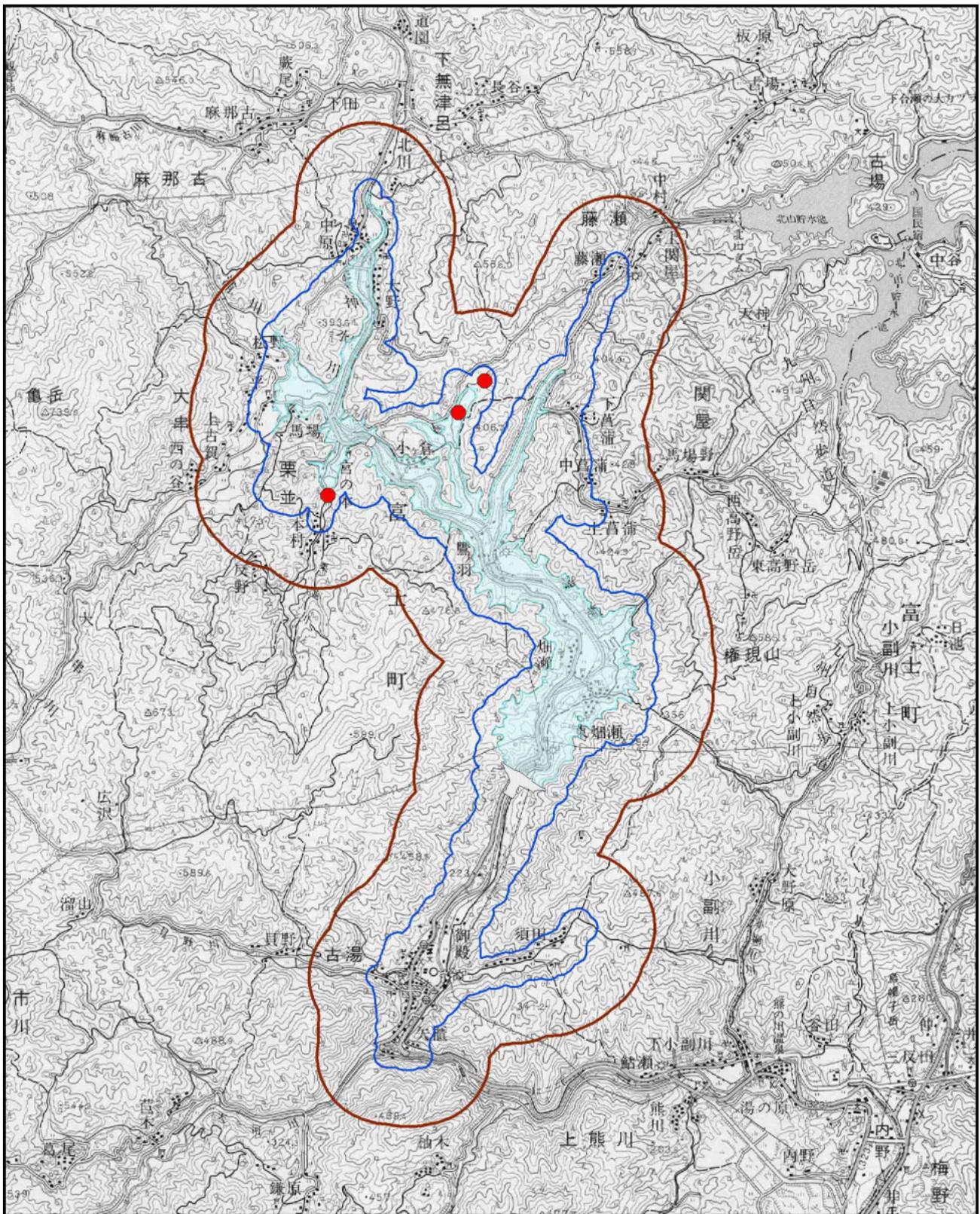
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(2)に示す。

本種は、平成 13 年度及び 14 年度の調査において、大野地区の音無周辺 2 地点、栗並川の本村集落周辺 1 地点、合計 3 地点で生息が確認された。

確認地点の環境は、放棄水田及びヤナギ低木林であり、成虫が各地点で 1 個体確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、主に放棄水田または休耕田や音無周辺の湿性に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

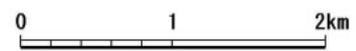


図4.1.5-7(2)
サラサヤマ確認地点

e-3) アオサナエ

i) 重要性

底生動物の章を参照

ii) 生態

底生動物の章を参照

iii) 調査結果

本種は、平成 14 年度の調査において、神水川の小ヶ倉橋付近 1 地点で生息が確認された。

確認地点の環境は、沢沿いであり、成虫が 1 個体確認された。

専門家への聴取により、本種は主に下流部に生息する種であり、対象事業実施区域及びその周辺の区域は主な生息域ではないとの情報を得た。

このほか、底生動物の調査において、幼虫が確認されている。

また、調査による確認地点は、幼虫と併せて図 4.1.5-8(4)に示す。

e-4) ハッチョウトンボ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に絶滅危惧 II 類種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布する³¹⁾。佐賀県内では、七山村檜原湿原、富士町市川、巖木町天川⁶⁾における記録がある。

主に平地や丘陵地、低山地の日当たりの良いモウセンゴケやミミカキグサ、サギソウ等が生育する滲出水のある湿地や湿原に生息する³¹⁾。幼虫は背丈の

低い草に覆われた小さく浅い滞水や滲出水等にすみ、水底の柔らかい泥の中に潜んで生活している³¹⁾。トンボ目が幼虫、成虫とも肉食であることはよく知られており、共食いの記録も多く報告されている³²⁾。しかし具体的な摂食行動についてはこれまでほとんど記録がない³²⁾。受精した雌は、単独で湿地の植物があるきわの浅い水面を連続打水して産卵する³¹⁾。

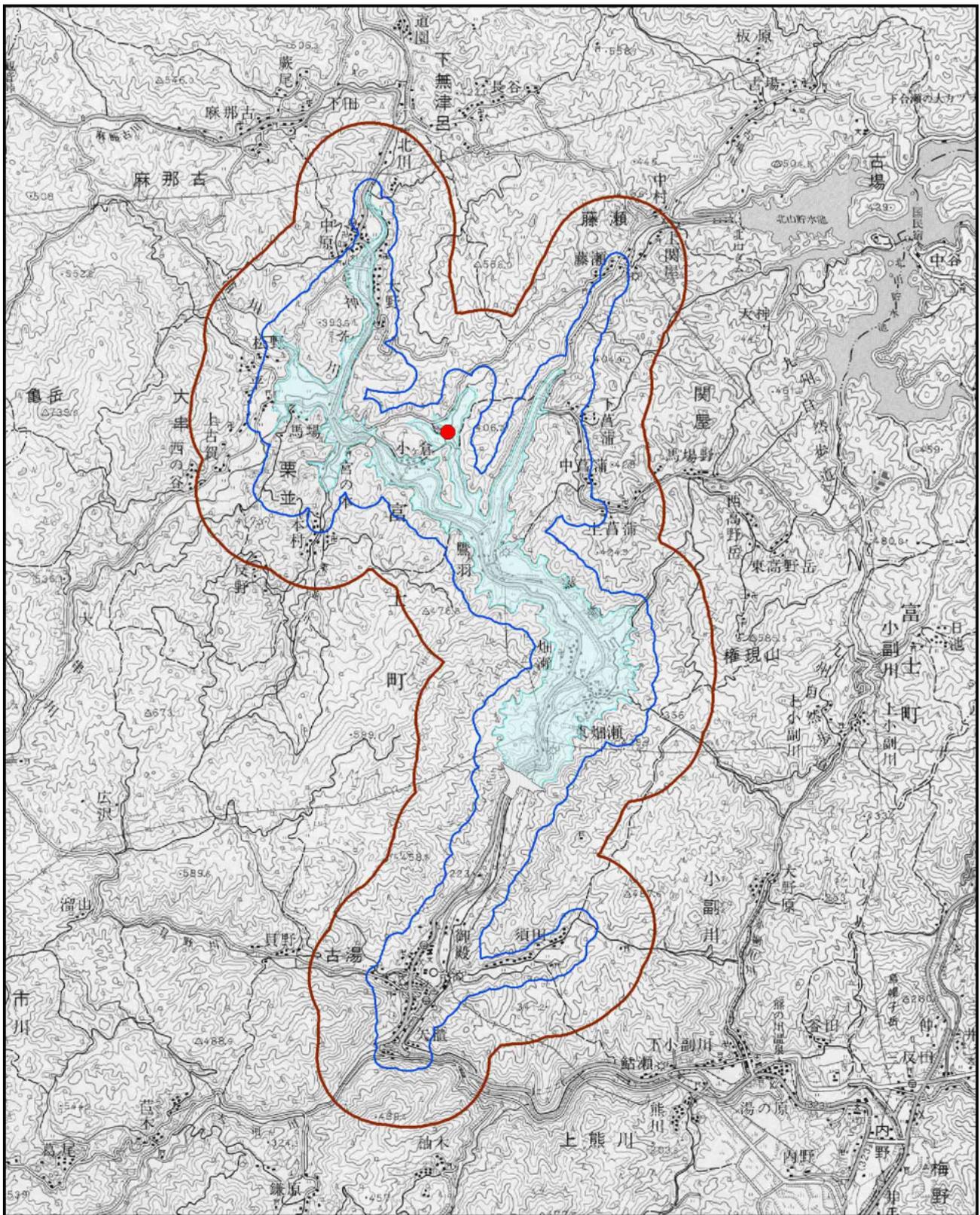
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(3)に示す。

本種は、平成 12 年度の環境巡視において、大野地区の音無周辺 1 地点で確認された記録がある。

確認地点の環境は、地下水の浸出しがみられる水田跡地であり、成虫が 1 個体確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、水田が放棄された後に出現した湿性地等に局地的に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-7(3)
ハッチョウトンボ確認地点

e-5) ハルゼミ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布する³⁴⁾。佐賀県内では、唐津市虹の松原、相賀、鏡山、鎮西町波戸岬、浜玉町鳥巢、小城町八丁ダム⁶⁾における記録がある。

4 月～6 月上旬にかけて、松林で普通に見られる³⁴⁾。アカマツとクロマツだけに生息する³⁵⁾。

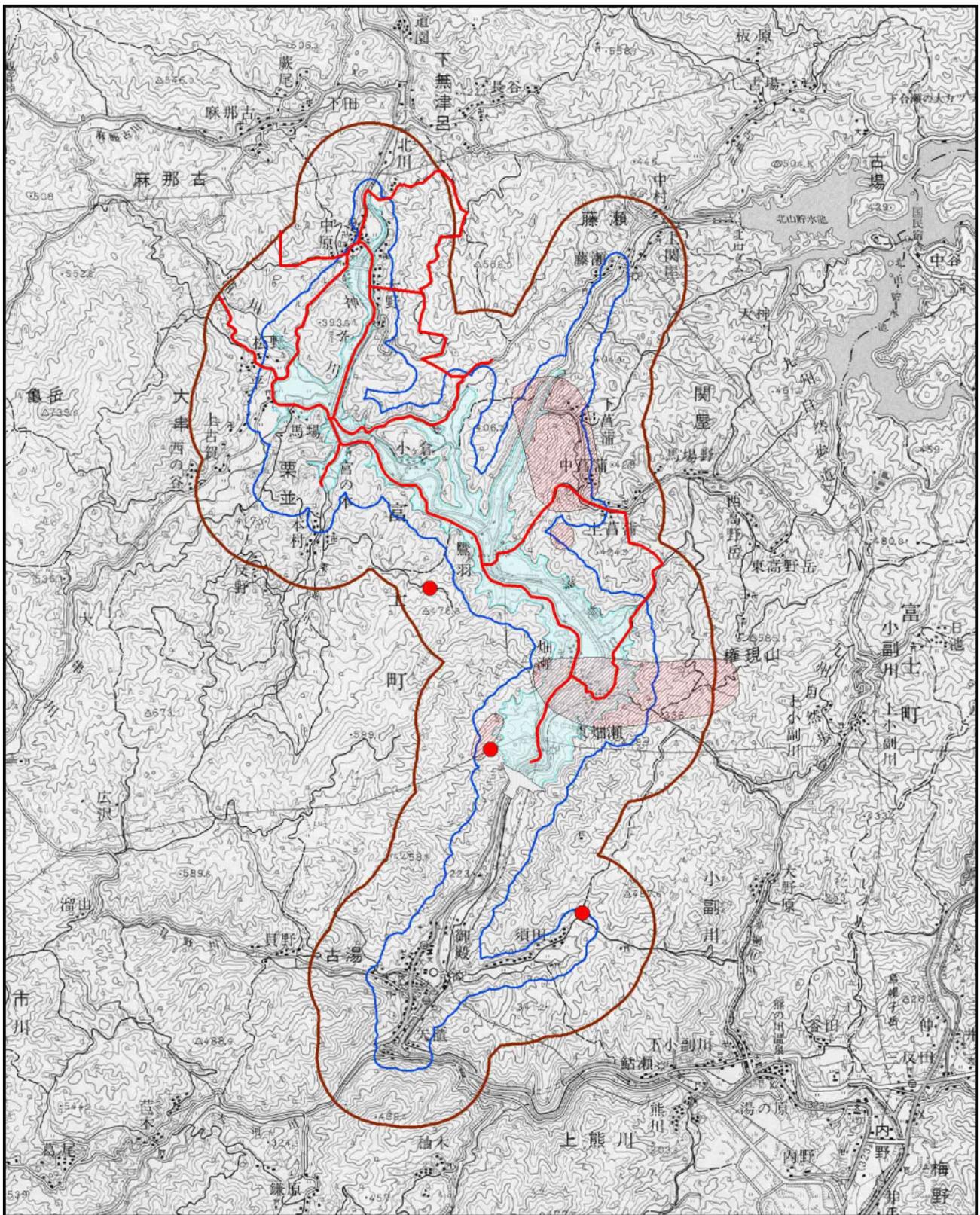
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(4)に示す。

本種は、平成 14 年度の調査において、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部 1 地点、小副川地区の須田集落東の砂防ダム周辺 1 地点、合計 2 地点で生息が確認された。また、平成 11 年度の環境巡視において、畑瀬地区の西畑瀬集落南の沢 1 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、昭和 61 年度に上菖蒲集落南西周辺、西畑瀬集落南周辺、平成 6 年度に対象事業実施区域内の踏査経路上、平成 9 年度に中菖蒲集落西周辺、権現山西付近において確認された記録がある。

確認地点の環境は、アカマツ林等であり、鳴き声の確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主にアカマツ林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-  *
 -  *
- } : 確認地点



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-7(4)
ハルゼミ確認地点

*: この経路内または範囲内で確認した記録がある。